

2017年度 教育開発支援機構FD推進センター 活動報告

FD 推進センター長 竹口 圭輔

教育開発支援機構FD推進センターでは、「『自由と進歩』の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・横断的な取り組み」をFD（ファカルティ・ディベロップメント）と定義し、全学的な教育支援施策の企画・開発およびFDの推進と各学部等のFD活動の支援を行っている。

2017年度の新たな取り組みとして、主に、①Webによる「学生による授業改善アンケート」の原則授業内実施、②同アンケート授業内実施を円滑に行うための取り組み（QRコード付の教員投影用パワーポイント・学生配布用ちらし・ポスター・サインホルダーの設置とその周知、大人数授業での事前テストによるシミュレーションおよび通信状況等確認）、③同アンケート学部・研究科等独自機能の改善、④「新学年暦－100分授業制－教員ガイド」「新学年暦100分授業制学生ガイド」の発行、⑤アカデミック・サポートサービスの3キャンパス展開と大学院生へのサービス拡大、⑥剽窃チェックソフトTurnitinの全学導入、⑦各学部等における組織的なFD活動への支援の一環としての、現代福祉学部Well-being 研究会での講演（FDの基本的な考え方、個々の教員ができるFD活動、アクティブラーニングの方法等）、が挙げられる。

特に、2014年度秋学期からWeb方式に移行した「学生による授業改善アンケート」は、回答率に課題があったが、①②の取り組みによりこれが改善した（前年度比：春学期8.3%→28.7%、秋学期8.5%→21.1%）。これによりWeb方式移行に伴う課題は一定程度解消されたとみられるため、FD推進センター内で引き続き回答率の把握・検討を継続しつつも、今後は、各学部等の授業改善に資するため、アンケート結果の活用に重点を置いて検討していきたい。

なお、2017年度FD推進センターの活動の概要は以下のとおりである。

1. 2017年度 運営・執行体制

(1) 教育開発支援機構長

大野達司（法学部教授）

(2) センター長

竹口圭輔（経済学部教授）

(3) プロジェクト・リーダー等

FD計画プロジェクト 林 容市（文学部専任講師）

FD調査プロジェクト 山本兼由（生命科学部教授）

FD開発プロジェクト 常盤祐司（情報メディア教育研究センター教授）

FD推進プロジェクト 岡松暁子（人間環境学部教授）

FD広報プロジェクト 小屋多恵子（理工学部教授）

学生FD担当 川上忠重（理工学部教授）

(4) 事務局

学務部教育支援課（課長1名・事務主任1名・課員4名（うちFD業務主担当2名））

2. 2017年度 イベント開催

- (1) 第6回新任教員FDセミナー（学内・FD・新任教員対象）

「私の授業の工夫」

講演者：キャリアデザイン学部 田澤実准教授、社会学部 吉村真子教授、デザイン工学部 森猛教授

日時：2017年7月8日（土）14：00-16：00

場所：市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階S505教室

人数：35名

- (2) 第18回FDワークショップ（学内・SD・教職員対象）

「大学のパラダイムシフトを見据えて－少子高齢化を生き抜く『長期ビジョンHOSEI2030』を職員として支えるには－」

講演者：桜美林大学教授・大学院部長 山本真一氏、近藤清之常務理事

日時：2017年9月5日（火）13：30-17：00

場所：市ヶ谷キャンパス外濠校舎4階S407教室

人数：77名

備考：学務部・人事部共催

- (3) 第10回FDミーティング（学内・FD・教職員対象）

「LGBTQについてはじめの一步－トランスジェンダーの学生と向き合うために－」

講演者：法政大学学生センター学生相談室精神科医師 櫻小路岳文氏

日時：2017年11月10日（金）17：00-18：20

場所：市ヶ谷キャンパス九段校舎5階第二会議室

人数：41名

備考：講演者の申し出により、当日の配付資料では”LGBTQ”の表記を”LGBTs”に変更。

- (4) 第2回法政大学スーパーグローバル大学創成支援事業・第14回FD合同シンポジウム（学内外・FD・一般対象）

「大学の持続可能な成長は可能か？～大学教員の専門職としての学習を軸に～」

講演者：ロンドン大学 バークベックカレッジ教授 Miriam Zukas氏

大学評価室長・FD推進センター学生FD担当 川上忠重理工学部教授、FD推進センター長 竹口圭輔経済学部教授、近藤清之常務理事

日時：2017年12月2日（土）14：00-17：00

場所：市ヶ谷キャンパス富士見ゲート5階G502教室

人数：67名

備考：グローバル教育センター・大学評価室共催

- (5) 学生FDサミット（学内外・学生FD・教職員学生対象）

「学生FDサミット2018春～みんなで創る学生FDサミット～」

講演者：京都大学教育学研究科准教授 服部憲児氏

日時：2018年3月8日（木）・9日（金）

場所：市ヶ谷キャンパス外濠校舎3階S305教室（メイン会場）

人数：262名（全国61大学・機関）

備考：第11回FDフォーラムの一環として実施。

3. 各学部等のFD活動への支援

「学生による授業改善アンケート」学部等ごとの集計および特別集計の提供、現代福祉学部Well-being研究会（12/13）でのセンター長講演、授業相互参観の推進、全学GPCA集計表の提供

4. 個別教員への教育支援

新任教員研修会におけるセンター長講演（4/4）、「学生による授業改善アンケート」の実施、アカデミック・サポートサービス、学生による授業モニター、剽窃チェックソフトTurnitinの全学導入、その他教育支援ツールの紹介（授業支援システム、アクティブラーニング・セット、リアクションペーパー読み取り機、A6サイズのリアクションペーパーの新たな設置等）

5. 学生によるFD推進

第10回学生によるFDコンクール・FD川柳2017の実施、学生FDスタッフの活動（オープンキャンパス企画（8/6・8/20・8/21）、教育開発支援機構主催『学生が選ぶベストティーチャー賞』への参画、『学習支援ハンドブック2017』への編集協力、『学生FDスタッフだより創刊号』の作成、学生FDサミットの本学主催（2018.3）、そのためのスタッフミーティング等）

6. 2017年度 発行物

冊子「法政大学学習支援ハンドブック2017」（2017.4.1）、冊子「T・Aハンドブック」（2017.4.1）、冊子「学生FDスタッフだより創刊号」（2017.4）、動画コンテンツ「T・Aの業務について」（2018.9.5）、Web版「法政教員の輪」更新（文学部川崎貴子教授追加）（2017.9.27）、冊子「新学年暦－100分授業制－教員ガイド」（2017.11.1）、リーフレット「新学年暦100分授業制学生ガイド」（2017.11.1）、Web版「FDハンドブック」更新（総長ビデオ・ベストティーチャー講義動画追加等）（2018.1.10）、新聞「FD学生の声コンクール2017」（2018.3.31）、電子媒体「FD推進センターNewsletter第23-26号」（2017.5.25・6.26・9.18, 2018.3.25）、冊子「法政大学教育研究第9号」（2018.3.31）

7. 各プロジェクト等の事業概要

(1) FD計画プロジェクト

教育の質的向上に向けた全学的活動推進のための情報収集、分析、施策の企画・立案・提案。

(2) FD調査プロジェクト

「学生による授業改善アンケート」の実施・改善、アンケート結果の集計・分析、報告書の発行。GPAの活用方法の検討と提案。

(3) FD開発プロジェクト

具体的な支援のための方法・ツールについての情報収集、分析、情報提供および提案、学習支援のあり方の検討。

具体的には、法政教員の輪の記事公開、FDイベントビデオの収録および公開等。

(4) FD推進プロジェクト

FD支援・推進のための関連情報の提供、新任教員研修会、教員研修、シンポジウム、フォーラム、ワークショップ等の企画・実施。

具体的には、新任教員研修会、新任教員セミナー、教職員研修、授業相互参観、シンポジ

ウム・セミナー等の企画・実施、「法政大学教育研究」の編集・発行、各学部等における取り組みの支援。

(5) FD広報プロジェクト

FD学生の声コンクール・FD川柳の開催、ホームページ・関連冊子による情報発信（FDハンドブックWEB版、「学習支援ハンドブック」、「FD学生の声コンクール」新聞、FD推進センター Newsletter等）。

(6) 学生FD担当

学生の主体的な学びへの意欲および教育の質向上を目的とした、学生・職員・教員協働型の大学教育の質的転換に関する情報発信。学生の視点を活かした授業改善および組織的な学生FD活動の実施。

8. 学内会議

(1) 教育開発支援機構企画委員会（規定第1030号）

教育開発支援機構長を補佐するとともに、機構の活動方針・機構を構成する4センターの運営方針を審議し決定するための会議。

構成：委員長（機構長）、副委員長（担当常務理事・事務部長）、各センター長、指名委員、オブザーバー 計 12名

会議：10回開催（4/27・5/15・6/12・7/10・9/22・10/5・12/7・1/25・2/22・3/15）うちセンター長9回出席

(2) プロジェクト・リーダー会議（規定第829号）

FD推進センターの事業の企画及び実施を行うための会議。

構成：教育開発支援機構長、センター長（議長）、プロジェクト・リーダー、事務局

会議：10回開催（4/18・5/30・6/20・7/25・9/19・10/30・11/20・12/18・1/22・3/19）

(3) プロジェクト会議

FD推進センターの事業を各プロジェクトが専門的かつ中心となって実施するための会議。

構成：プロジェクト・リーダー（座長）、プロジェクト・メンバー（FD計画：6名、FD調査：4名、FD開発：7名、FD推進：7名、FD広報：6名）

会議：FD計画：11回、FD調査：10回、FD開発：9回、FD推進：3回、FD広報：8回。これらの他、各メーリングリストにより適宜メール会議を実施。

(4) アドバイザリー・ボード（規定第829号）

FD推進センターの事業に関わる助言・提案及びチェックを行うとともに、学部教授会等との連絡調整を行うための会議。

構成：議長（センター長）、教育開発支援機構長、プロジェクト・リーダー、各学部・ILAC・KLAC・研究科長会議・専門職大学院・通信教育部・事務部門から選出された委員 計36名

会議：3回開催（5/20：年度活動計画、11/25：中間報告、3/20：活動報告）

9. 所属学会・参加団体

(1) 大学教育学会：団体会員

(2) 初年次教育学会：機関会員

- (3) 日本リメディアル教育学会：賛助会員
- (4) 全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF：Japan Private Universities FD Coalition Forum）（37大学加盟）：幹事校
幹事会・総会・パネルディスカッション（6/3）、幹事校・会員校ミーティング（1/12）、幹事校ミーティング（3/13）
- (5) 関東圏FD連絡会（青山学院大学・國學院大学・東洋大学・法政大学・立教大学）
連絡会（6/20・11/7・3/11）

10. その他

- (1) セミナー参加費補助
大学コンソーシアム京都「第23回FDフォーラム」（3/3・3/4）：教職員9名
日本教育研究イノベーションセンター・東京大学大学総合教育研究センター「インタラクティブティーティングフォーラム」（3/3）：教員1名
京都大学高等教育研究開発推進センター「第24回大学教育研究フォーラム」（3/20・3/21）：教職員3名
- (2) 他大学主催学生FDサミット派遣
金沢星稜大学主催「学生FDサミット2017夏」（8/31・9/1）：教職員学生11名（2018年3月に本学の主催を控えていたため、通常の参加に加え、会場設営・イベント運営方法等の情報収集を行った。）
- (3) FDメールマガジン：15通

以 上

〈FD計画プロジェクト〉

I 2017年度活動計画(2017年5月20日のアドバイザリー・ボード会議で報告された内容)

1. 活動目的

教員ならびに教育の質的向上を図るための方策及び恒常的な検証を推進するための全学的なFD活動推進に資する関連情報を、学内学外を問わず収集し分析を行う。これらに基づき、FD活動推進にむけた諸施策を主として学内関連会議などへ提案を行う。

2. 活動計画

- (1)「学びの質向上」に向けたマトリクスの作成・提案（継続）
- (2)「学びの質向上」に向けた教員に向けたアンケートの項目・方法の検討（新規）
- (3)「ゼミ活動を対象としたFD活動」の参考としての学生向けループリックの提案（新規）

3. プロジェクト・メンバー（五十音順、*：プロジェクト・リーダー）

泉重樹（スポーツ健康学部）、川上忠重（理工学部）、小林一行（理工学部）、田中優希（経済学部）、須藤智徳（多摩事務部学務課）、根本雅弘（人事部人事課）、*林容市（文学部）

II 今年度の活動実績（アドバイザリー・ボード会議への報告と意見聴取）

1. 「学びの質向上」に向けたマトリクスの作成・提案（継続）

- (1)市ヶ谷、小金井、多摩の各キャンパスにおける教養と専門、さらにその他（SSI、ESOP等）を加えた7区分で授業改善アンケートの結果を再分析し、法政スタンダードとしての「学びの質向上」に向けたマトリクスの作成に向けて、検討を継続した。

2. 「学びの質向上」に向けた教員に向けたアンケートの項目・方法の検討（新規）

- (1)「授業運営における教員の授業改善支援に関するニーズの把握」することを目的とし、これに応じた項目の選定を進めることとなった。
- (2)以前専任教員を対象に実施された類似のアンケートにおいては、回答率の低いこと（20%程度）が課題であったことから、実施に際しては学内メールまたは簡易のwebアンケートなどを利用して実施する方向で検討を進めた。

3. Web シラバスにおける記載内容・入力内容の改修（新規）

- (1)来年度の授業時間変更に伴う半期の授業回数変更に関連して、シラバスガイドラインの内容を確認、検討した。その結果、実際のシラバス入稿に際しては、別途画面上に説明書きが表示されることから、従来のシラバスガイドラインに加筆は行わず、入稿画面での注意書きのみで対応して頂くこととなった。
- (2)2019年度からのWebシラバスの改修（入力機能追加）に向けて、授業内で使用する言語、アクティブラーニング活動の有無などの導入について確認・検討を行った。

4. 「ゼミ活動を対象としたFD活動」に向けた学生向けループリックの提案（新規）

(1)今年度の活動の主体として毎回の委員会において多くの時間を割き、ループリックの作成を進めた。

目的：受講生への評価基準の提示、受講生の自己評価、教員からの評価・提言、受講生からのフィードバック（教員のふりかえり・気づき）等の様々な用途を意図して観点を選定し評価を作成する。

観点：参考資料の分類表現に基づき、ループリックにおける大区分の表現およびそれに含まれる観点を検討した。また、他の観点との整合性をとるなどの作業を行い、最終的に大項目および観点を確定した。

評価：定量的に示せる観点である場合には、その基準を併記した。他方、教員側の評価基準としての意義を重視することとし、定量的な評価が難しい場合には各評価が差別化できるような定性的な表現を用いて対応した。評価基準については、「3」が「標準・普通」の評価になるように作成し、評価基準「2」については、肯定的な表現（～できる、など）の前に、修飾語を付けるなどして、「3」との差別化を図った。観点に示される評価の文言について学生の可読性を高めることを第一に作成したが、実際にループリックを使用する段階で、教員側の判断で文言や評価基準への加筆/修正は自由に行えるものとした。

運用：実際のゼミでのトライアルを通じて得られた感想等を踏まえて、教員の立場および学生からの意見を集約し、ループリックの使用に際しての活用の手引きを作成した。また、提示は、HPやPDFを用いて行うこととした。

5. プロジェクト会議

(1) 開催回数：11回（5/27、6/16、7/14、9/22、10/20、11/17、1/22、3/7）

(2) プロジェクト会議実施日及び議題（抜粋）

第1回：5月12日（金）「学生による授業改善アンケート」に関する検討

第2回：6月16日（金）「教員に向けたアンケートの項目・方法の検討」および「学生向けループリック」の項目・観点選定に向けたキーワードの検討

第3回：7月14日（金）「学生向けループリック」の項目・観点の選定および評価基準の検討

第4回：9月22日（金）「学生向けループリック」の観点を取りまとめた大区分の検討・選定

第5回：10月20日（月）「学生向けループリック」の観点を取りまとめた大区分の検討・選定

第6回：11月17日（金）「Web シラバスにおける記載内容」の検討および「学生向けループリック」における評価基準の修正、想定する使用方法の検討

第7回：1月22日（月）「学生向けループリック」を実際に使用したトライアルの状況を踏まえた内容の再検討およびアウトプット方法の検討

第8回：3月7日（水）「Web シラバスの改修」に向けた項目の検討および「学生向けループリック」案の完成と「活用の手引き」の作成

Ⅲ 今後の活動予定

(1)「学びの質向上」に向けた教員に向けたアンケートの項目・方法の検討

(2)「学びの質向上」に向けたマトリクスの作成・提案

以上

〈FD調査プロジェクト〉

I 活動計画（2017年度5月20日のアドバイザリー・ボード会議で報告された内容）

1. 活動目的

FD推進へ貢献する事項の調査を目的とし、主に「学生による授業改善アンケート」の実施と集計結果および分析を行い、本学FD活動の現状把握と今後の課題を検討する。

2. 活動計画

- (1) 「学生による授業改善アンケート」の企画と実施
- (2) 「学生による授業改善アンケート」結果の集計と分析
- (3) 2016年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書の発行
- (4) 「学生による授業改善アンケート」各種集計を利用する各学部等への支援
- (5) FD調査プロジェクト中長期的目標の検討

3. プロジェクト・メンバー（五十音順、*：プロジェクト・リーダー）

客夢璐（学務部教育支援課）、菅幹雄（経済学部）、田中良達（人事部人事課）、芳賀瑛（情報メディア教育研究センター）、*山本兼由（生命科学部）

4. その他

- (1) 月例会議を原則に、メーリングリストによる審議も利用

II 2017年度活動実績

1. 「学生による授業改善アンケート」の企画と実施

- (1) 期首・期中アンケートを実施。

春学期：利用回数29回、利用者4名、実施科目11科目

秋学期：利用回数41回、利用者8名、実施科目13科目

＜参考：2016年度＞

春学期：利用回数16回、利用者4名、実施科目5科目

秋学期：利用回数43回、利用者6名、実施科目12科目

- (2) 期末アンケートを実施。

春学期：回答率 28.7%（回答件数 85,435 件／回答対象件数 298,147 件）

秋学期：回答率 21.1%（回答件数 58,648 件／回答対象件数 277,827 件）

＜参考：2016 年度（前実施方法）＞

春学期：回答率 8.3%（回答件数 24,254 件／回答対象件数 292,718 件）

秋学期：回答率 8.5%（回答件数 23,066 件／回答対象件数 272,485 件）

- (3) 期首・期中アンケートに当たる「オンライン授業改善ヒアリングサービス」について、c-learningシステムで行う整備を実施。今後、本サービスメインでの導入を検討。
- (4) 2017年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書の発行を企画（Webでのみ配信）。
- (5) 2017年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果の集計フォーマットを作成。

2. 「学生による授業改善アンケート」結果の集計と分析

- (1)授業改善アンケートの全集計結果（2013年度～2015年度）についてGPA情報とのクロス集計を行った結果、web 化導入後に(1)回答者の平均累積 GPA が 0.2 程度増加する傾向があるが、(2) GPAと回答傾向に相関がないことが分かった。
- (2)2016年度全学集計結果の集計と分析を行った（報告書として発行）。
- (3)2017年度春学期アンケート結果を用いて、自由記述に関する統計分析を行った結果、(1)自由記述を行う学生は概ね履修者の1割程度であるが、多くの自由記述がある科目も存在した。また、(2)「満足度が高く自由記述が多い科目」には演習と実技の科目が含まれる割合が高く、「面白」「丁寧」の特徴的なキーワードが存在することを示唆した。

3. 2016年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書の発行

- (1)学部の2016年度全学集計結果報告書を作成し、発行。
- (2)大学院の2016年度全学集計結果報告書を作成し、発行。

4. 「学生による授業改善アンケート」各種集計を利用する各学部等への支援（これまで19件）

- (1)各学部等から要望される特別集計へ対応。
- (2)各学部等から要望されるデータ提供へ対応。

5. FD調査プロジェクト中長期的目標の検討

- (1)「学生による授業改善アンケート」の集計結果から、学生への修学サポートと教員への教授サポートに対する具体的な提案を目標。

6. プロジェクト会議

- (1)10回開催（4/14、5/15、6/19、7/18、9/14、10/14、11/7、12/12、1/23、3/12）

Ⅲ その他

- (1)2017年度「学生による授業改善アンケート」結果の集計と分析
- (2)2017年度「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書の発行
- (3)「学生による授業改善アンケート」の活用のための調査
- (4)「学生による授業改善アンケート」の活用のための調査

以上

〈FD開発プロジェクト〉

I 活動計画（2017年度5月20日のアドバイザリー・ボード会議で報告された内容）

1. 活動目的

教育および学びの質の向上を目的とし、すべての教員が使える教育方法および教育支援ツールの展開を行う。

2. 活動計画

(1) 教育方法の開発と展開

Active Learningおよび反転学習などの新たな教育方法を本学に適用するための検討を行い、成果を全学に展開する。

(2) 教育支援ツールの開発と展開

2016年度までに開発された各種教育支援ツールを全学に展開する。

(3) 教員用FDハンドブックコンテンツの更新および追加

2016年度までに開発された各種教育支援ツールを全学に展開する。

3. 期待される状態

「2. 活動計画」の成果として次の状態を目指す。

(1) 新たな教育方法の実践により学びの質が向上する：活動計画(1)

効果はアンケートあるいはヒアリングにて定性的に評価する。

(2) 教育支援ツールの利用により教育方法が改善される：活動計画(2)

効果はアンケートあるいはヒアリングにて定性的に評価する。

(3) 教員用FDハンドブックWebサイトが閲覧される：活動計画(3)

Webサイト閲覧数で定量的に評価する。

4. プロジェクト・メンバー(敬称略)と役割

坂本旬（キャリアデザイン学部）、野々部宏司（デザイン工学部）、尾花賢（情報科学部）、田村晶子（経済学部）、堀内剛（教育支援課）、森幹彦、藤井聡一郎、常盤(情報メディア教育研究センター)

情報メディア教育研究センター所属のメンバーが教育方法および教育支援ツールを提案・開発し、それを学部所属のメンバーが評価あるいは実践し、事務職員のメンバーが事務的な視点からレビューするという役割分担とする。

5. コミュニケーション

(1) 月例会

(2) メーリングリスト (fdde@ml.hosei.ac.jp)

6. FD推進センター他プロジェクトとの連携

より効果的にプロジェクトを推進するために、FD推進プロジェクト、FD広報プロジェクトなどFD推進センター内のプロジェクトと連携する。

Ⅱ 2017年度活動実績（報告）

1. 活動目的の確認

教育および学びの質の向上を目的とし、すべての教員が使える教育方法および教育支援ツールの展開を行う。

2. メンバー（敬称略）と役割

坂本句（キャリアデザイン学部）、野々部宏司（デザイン工学部）、尾花賢（情報科学部）、田村晶子（経済学部）、堀内剛（教育支援課）、森幹彦、藤井聡一郎、常盤(情報メディア教育研究センター)

情報メディア教育研究センター所属のメンバーが教育方法および教育ツールを提案し、それを学部所属のメンバーが実践して評価を行い、事務職員のメンバーが事務的な手続きをレビューするという役割分担とする。


3. プロジェクトMeeting

9回（4/20, 5/22, 6/22, 7/28, 10/6, 11/13, 12/12, 1/16, 3/13）

4. 活動計画レビュー

計画	レビュー
(1) 教育方法の開発と展開 Active Learningおよび反転学習などの新たな教育方法を本学に適用するための検討を行い、成果を全学に展開する。	●「新学年暦-100分授業制-教員ガイド」の制作にあたり、100分授業に向けた移行モデルなどを検討し、それらの成果を提供した。このガイドは教育支援課により取りまとめられ、FD推進センターから全教員に配布された。
(2) 教育支援ツールの開発と展開 2016年度までに開発された各種教育支援ツールを全学に展開する。	● 情報メディア教育研究センターにて開発された、プレゼンテーション相互評価支援システム(peas)、手書き文書LMS連携システム(jimon)、教育向ビデオ配信システム(OATube)の学内展開を行った。法学部、文学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、GIS、経済学部、理工学部、情報科学部などで利用された。 ● 教育支援ツールとは異なるが、教職員の事務的作業の効率化を目的とするゼミ選考支援システムや成績登録支援ツールなどの展開も行った。
(3) 教員用FDハンドブックの開発 2016年度に開発したFDハンドブックのコンテンツを更新するとともに内容の充実を行う。	● 2017年4月に公開されたWeb版FDハンドブックに、「学生が選ぶベストティーチャー賞」および「新学年暦 - 100分授業制 - 教員ガイド」のコンテンツを追加し、合わせてコンテンツ検索機能を付加した。

5. 期待される状態に関するレビュー

期待値	現状とアクションプラン
新たな教育方法の実践により学びの質が向上する：(1)	2018年度授業準備における「新学年暦 -100分授業制- 教員ガイド」の有効性に関し、プロジェクト内でヒアリングを実施した。結果として、各教員においては教員ガイドを一読し、100分授業の準備の参考にしていた。学びの質向上への影響については2018年度の授業実践にて評価されるので次年度への持ち越しとする。
教育支援ツールの利用により教育方法が改善される：(2)	プレゼンテーション相互評価支援システム(peas)、手書き文書LMS連携システム(jimon)、教育向けビデオ配信システム(OATube)により、学生参加型のいわゆるアクティブ・ラーニングが実現され、それによる学習効果が認められた。特に、peasおよびjimonでは教員から学生へのフィードバックにより学習に対する学生のモチベーションが向上した。情報科学部ではpeasを卒論発表にて5教室150人の学生にて利用し、今後学部全体への浸透が期待される。 課題としてはこれらツールを利用する教員が20～30名程度に留まっており、まずは100名以上の教員が利用するレベルへの展開が望まれる。
教員用FDハンドブックWebサイトが閲覧される：(3)	Webサイト閲覧数で定量的に評価することとしているが、通年で5～30 Visitors/日程度のアクセス状況となっている。 

6. 総評

教育方法および教育ツールについては、情報メディア教育研究センター所属のメンバーがそれらを提案し、学部所属のメンバーが評価し、事務部門所属のメンバーが事務的な手続きをレビューするという体制でここまで様々な活動を行えた。

「(1) 教育方法の開発と展開」では、「新学年暦－100分授業－教員ガイド」を制作するために移行モデルの検討やWeb版FDハンドブックの整備などを行い、FD推進センター全体の協力を得て、すべての教員に新学年暦教員ガイドを配布することができた。

「(2) 教育支援ツールの開発と展開」では、情報メディア教育研究センターで開発されたツール

が8学部で実際の授業で使われ、これらのツールによるアクティブ・ラーニングが浸透しつつある。ただし、全学的な展開のきっかけとなる15%以上の教員が利用するレベルへの展開が望まれる。

「(3) 教員用FDハンドブックの開発」については、学生が選ぶベストティーチャー賞のビデオコンテンツの組み込みや、「新学年暦-100分授業-教員ガイド」のための整備を行った。100分授業への準備などでの利用が期待される。

以上、期首に計画したプロジェクトについては概ね計画通りにすすめられてきたが、教育支援ツールの展開についてはさらなる利用者数の増加が望まれる。

添付資料：

- ・FD開発プロジェクト2017 WBS (2018年3月12日更新版)

以上

FD開発プロジェクト2017 WBS

2017.5.19 常盤 作成
2018.3.12 常盤 更新

○：計画、●：完了

戦略/施策/実行計画	担当	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1) 教育方法の開発と展開 Active Learningおよび反転学習などの新たな教育を本学に適用するための検討を行い、成果を全学に展開する。	森												
学習支援事例紹介と法政大学における適用を検討する。	森	●	●										
100分授業の理念や主旨を調査する。	P. Meeting				●	●	●						
100分授業による課題を調査する。	P. Meeting				●	●	●						
100分授業の理念や主旨を伝える方法を検討する。	P. Meeting				●	●	●						
ブレンドドラーニングの適用を検討する。	森				●	●	●	●					
自主学習スペースの実態調査をする。	P. Meeting		●	●									
(2) 教育支援ツールの開発と展開 2016年度までに開発された各種教育支援ツールを全学に展開する。	藤井												
方針検討	藤井	●											
方針案レビュー	P. Meeting		●										
ツールの改善に関する要求獲得(利用手順、機能)	P. Meeting			●									
ツールの改善に関する要件定義	藤井				●								
情報メディア教育研究センターにおける開発管理(LTI対応、新機能の実装)	藤井	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
パイロット版運用によるフィードバックの収集	藤井			●	●	●	●	●	●	●	●		
教育支援ツールの周知の準備(Web、講習会)	藤井				●	●							
教育支援ツールの周知	藤井				●							●	
プロジェクトレビュー	P. Meeting												●
(3) 教員用FDハンドブックの開発 2016年度に開発したFDハンドブックのコンテンツを更新するとともに内容の充実を行う。	常盤												
方針検討	常盤	●											
100分授業に関する要求獲得	P. Meeting		●										
制作すべきコンテンツに関する要件定義	常盤			●									
Best Teacher賞ビデオコンテンツレビュー	FD Leader会議			●									
Web成績登録支援ツール小金井キャンパス展開	常盤				●								
FD Leader会議レビュー & 公開	FD Leader会議					●							
100分授業を支援するコンテンツ要件定義	常盤					●		○	○				
100分授業マニュアルの作成	常盤					●	●	●					
100分授業マニュアルレビュー	FD Leader会議						●						
FD-handbookにおける100分授業コンテンツ更新	常盤								●	●	○	●	○
FD-handbookにおける100分授業コンテンツレビュー	P. Meeting											○	
Web成績登録支援ツール市ヶ谷キャンパス展開	常盤										○	●	
FD Leader会議レビュー & 公開	FD Leader会議												○
プロジェクトレビュー	P. Meeting												●
Puroject Meeting 開催月日 (Actual)		4/20	5/22	6/22	7/28			10/6	11/13	12/12	1/16		3/13

〈FD推進プロジェクト〉

I 2017年度活動計画（2017年5月20日のアドバイザー・ボード会議で報告された内容）

1. 活動目的

継続的なFD活動の活性化及び実質化を重視するとともに、シンポジウム、フォーラム、セミナーなどの参加型FD活動、関連部局・センターとの共同シンポジウム及びワークショップの実施、学部、大学院に特化したミーティングの開催、大学間連携や教員・職員の協働によるFD推進、「法政大学教育研究」の発行等により、FD活動の共有化、業績化、広報化を図り、教育および学びの質の向上に向けたFD推進を実施する。

2. 活動計画（時系列順）

大学間連携

(1) 全国私立大学FD連携フォーラム総会（JPFF総会）＜大学間連携＞

JPFF: Japan Private Universities F D Coalition Forum

「授業形態・授業時間の多様化への対応 ～教育効果をあげるための取組事例～」

・日時 2016年6月05日（日）13：00～17：00（予定）

・場所 中央大学駿河台キャンパス

*12：00～13：00幹事校ミーティング（予定）

・話題提供：東京大学 栗田佳代子 准教授

国際基督教大学 伊東辰彦 教授（元教養学部長）

明治大学 千田亮吉 教授（明治大学教務担当副学長（兼教務部長））

・パネルディスカッション：コーディネーター 中央大学文学部長 都築学

(2) 法政大学第6回新任教員FDセミナー＜学内新任教員対象（必須）＞

・日時 2017年7月8日（土）13：30～16：00（予定）

・場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 4階 S407教室（予定）

・話題提供 学内3名予定

学内話題提供学部 キャリアデザイン学部、社会学部、デザイン工学部（依頼済）

学内講師（予定）

FD広報プロジェクト・リーダー

経済学部 竹口 圭輔

＜参考＞＊全学部共催

2012年度 人間環境学部、社会学部、デザイン工学部

2013年度 国際文化学部、経済学部、生命科学部、学務部教学企画課

2014年度 法学部、現代福祉学部、理工学部、学務部教学企画課

2015年度 経営学部、経済学部、理工学部

2016年度 文学部、スポーツ健康学部、情報科学部

(3) 法政大学第18回FDワークショップ＜学内教員・職員対象＞

- ・日時 2017年9月5日（火）13:30～16:30（予定）
 - ・場所 法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 4階 S407教室（予定）
 - *学務部、人事部企画・共催
 - ・内容：学務部内にて検討予定
- (4) 法政大学第10回FDミーティング＜学内教員・職員対象＞
- 「LGBTについてははじめの一步 – 大学で求められる対応とは –」
- ・日時：2017年11月10日（金）17:15～18:30
 - ・場所：ボアソナード・タワー 25階 C会議室
 - ・話題提供者：尾辻かな子氏（一般社団法人LGBT政策情報センター代表理事）（予定）
- (5) 全国私立大学FD連携フォーラム総会（JPFF総会）＜大学間連携＞
- ・日時：2018年1月（日時検討中）
 - ・場所：中央大学駿河台キャンパス
 - *総会前に幹事校ミーティング（予定）
- (6) 法政大学第11回FDフォーラム（学生FDサミット2018春のオープニング企画）
- ＜学内外教職員・一般・学生対象＞
- 「学生FD活動に期待すること – さらなる輝きのために –（仮題）」
- ・日時：2018年3月8日（木）13:00～13:30（予定）
 - ・場所：法政大学市ヶ谷キャンパス（会場未定）
 - ・話題提供：京都大学教育学研究科 服部憲児氏
- (7) 「法政大学教育研究」（紀要）第9号の発行
- ・投稿期限 2017年10月5日（木）
 - ・発行予定 2018年 3月31日（金）

II 2017年度活動実績（報告）

- (1) 全国私立大学FD連携フォーラム総会（JPFF総会）＜大学間連携＞
- JPFF: Japan Private Universities FD Coalition Forum
- ・日時：2017年6月3日（土）13:00～17:00
 - ・場所：中央大学駿河台キャンパス
 - *12:00～13:00幹事校ミーティング
 - ・話題提供：東京大学准教授 栗田佳代子氏
国際基督教大学教授 伊東辰彦氏（元教養学部長）
明治大学教授 千田亮吉氏（明治大学教務担当副学長（兼教務部長））
 - ・パネルディスカッション：コーディネーター 中央大学文学部長 都築学氏
- (2) 法政大学第6回新任教員FDセミナー＜学内新任教員対象（必須）＞
- ・日時：2017年7月8日（土）13:30～16:00
 - ・場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 5階 S505教室
 - ・話題提供者：キャリアデザイン学部准教授 田澤実氏
社会学部教授 吉村真子氏
デザイン工学部教授 森猛氏

(3) 法政大学第18回FDワークショップ＜学内教員・職員対象＞

- ・日時：2017年9月1日（金）13：30～16：30
- ・場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 25階
- *学務部、人事部企画・共催
- ・内容：大学のパラダイムシフトを見据えて－少子高齢化を生き抜く
『長期ビジョンHOSEI2030』を職員として支えるには－

(4) 法政大学第10回FDミーティング＜学内教員・職員対象＞

「LGBTsについてはじめの一步－トランスジェンダーの学生と向き合うために－」

- ・日時：2017年11月10日（金）17：00～18：30
- ・場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 九段校舎 5階 第二会議室
- ・話題提供者：櫻小路岳文氏（学生相談室精神科医師・臨床心理士）

(5) 第2回法政大学スーパーグローバル大学創成支援事業・第14回FD合同シンポジウム

- ・日時：2017年12月2日（土）14：00～17：00（開場：13：30）
- ・場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート 5階 G502教室
- ・記念講演：Miriam Zukas氏（ロンドン大学バークベックカレッジ教授）
“Sustainable growth of universities: a focus on the professional learning of academics in universities”
（「大学の持続可能な成長は可能か？～大学教員の専門職としての学習を軸に～」）
- ・パネルディスカッション：Miriam Zukas氏

川上忠重 氏（本学大学評価室長、理工学部教授）

竹口圭輔 氏（本学教育開発支援機構FD推進センター長、経済学部教授）

近藤清之 氏（本学常務理事）

(6) 全国私立大学FD連携フォーラム総会（JPFF総会）＜大学間連携＞

- ・日時：2018年1月12日（金）
- ・場所：同志社大学東京サテライト
- *総会前に幹事校ミーティング
- ・アクティブ・ラーニングについてのグループワーク

(7) 法政大学第11回FDフォーラム（学生FDサミット2018春のオープニング企画）

＜学内外教職員・一般・学生対象＞

「学生FD活動に期待すること－さらなる輝きのために－」

- ・日時：2018年3月8日（木）、9日（金）
- ・場所：法政大学市ヶ谷キャンパス
- ・話題提供：京都大学教育学研究科 服部憲児 氏 8日 12：45～13：45
「学生FD活動に期待すること」－さらなる輝きのための「仕掛け」創り－

(8) 「法政大学教育研究」（紀要）

- ・発行予定 2018年 3月31日（金）

(9) 2018年度のセミナー等のテーマについて

- ・来年度の行事について、以下のような案がだされ、今後詳細を決めていくことが承認された。

(日程は予定。)

①新任教員研修 (9月初旬頃)

- ・「法政大学の学生像 (仮題)」
- ・基調講演：教歴の長い教員による、この30年での法政の学生の変化についての講演。
- ・パネルディスカッション：教歴5年、10年、20年の教員による、以下のテーマ (案) と、参加者からの質問に基づくディスカッション。
 - ・法政に着任する前の法政の学生に対するイメージと、着任後のイメージの相違
 - ・この10年間の法政の学生の変化
 - ・学生の学習意欲が変化した瞬間 (教員の取り組みと成果)

②FDミーティング (10月初旬頃)

- ・ハラスメントをテーマに開催。可能であれば、ハラスメント相談室との共催で行う。

③FDシンポジウム (10月末～11月頃)

- ・「全入時代の初年次教育 (仮題)」と題するシンポジウムを企画。
- ・内容の案
 - ・基調講演は2名とする。
 - ・文科省から1名：初年次教育の設置の趣旨および意義について
 - ・教育学等の専門家から1名：全入時代の初年次教育について (全入による学生の学力の変化があれば、それに言及してもらえるとよい。)

(10) 紀要について

- ・来年度への申し送り事項として、紀要のあり方の審議の提案があった。紀要については、廃止 (廃止の場合は、活動報告を発行する) も含めて審議することが必要であるとの意見がだされた。

Ⅲ その他

1. 紀要について

来年度への申し送り事項として、紀要のあり方の審議の提案があった。紀要については、廃止 (廃止の場合は、活動報告を発行する) も含めて審議することが必要であるとの意見がだされた。

以上

〈FD広報プロジェクト〉

I 2017年度活動目的と活動計画（2017年5月20日のアドバイザリー・ボード会議で報告された内容）

1. 活動目的

- (1)FD活動とその意義について、学内での認知度を高める。
- (2)学生・教職員に対して、学習支援関連の情報を提供するとともに、コンクールを通じてFDに対する関心を喚起する。
- (3)教員に対して、授業改善に役立つ情報や資料を提供する。

2. 活動計画

- (1)FD学生の声コンクール・FD川柳の実施
- (2)学習支援ハンドブックの編集、活用事例の収集等
- (3)FD広報活動の充実化

3. プロジェクト・メンバー

岩田和子（法学部）、小林ふみ子（文学部）、飯野厚（経済学部）、坂上学（経営学部）、川口悠子（理工学部）、客夢路（学務部教育支援課）、小屋多恵子（理工学部）

4. プロジェクト・メンバー会議

プロジェクト・ミーティングは4月から2月までに全8回実施し、本年度もほぼ計画通り活動を行うことができた。（4/27、5/18、6/15、7/27、10/5、11/9、1/30、2/27）

II 2017年度活動実績（報告）

1. FD学生の声コンクール・FD川柳

- (1) テーマ・キーワード「時間」and/or「可能性」
- (2) 提出期間 2017年8月1日（火）～9月29日（金）16：00
- (3) 広報活動
 - 2017年3月 : 声コン新聞にキーワードを掲載
 - 2017年8月以降 : お知らせ配信・HP、SNS・Newsletter・教職員向けメール送信による周知/チラシの配布・ポスター・インフォメーションボード・雑誌法政、法政通信の掲示
 - 2017年9月 : 特別プログラムの実施（「散文講座」9/20（水）、「川柳講座」9/27（水））
- (4) 応募結果
 - 声コン : 応募総数40 作品（昨年度30件）
 - FD川柳 : 応募総数139 作品（昨年度136件）
- (5) 審査結果
 - 声コン : 最優秀賞1作品、優秀賞6作品、佳作10 作品
 - FD川柳 : FD 川柳大賞1作品、佳作11 作品、入選23 作品
- (6) 授賞式

12/25（月）に授賞式を実施した。受賞作品と座談会の様子はタブロイド判の新聞形式で3月末に発行、4月に新入生と教職員に向けて配布予定。

(7) 次回テーマ

受賞者にアンケート調査を実施した。その結果を参考に、2018年度（第11回）声コンのキーワードを決定した。キーワードは、「多様性」and/or「空気」。このキーワードは3月末に発行する声コン新聞に掲載し、学生向けに早めに周知する。

2. 学習支援ハンドブック2018の改定状況

(1) 基本形式・発行部数

デザイン・内容とも2016年度版を踏襲した。発行部数は、11,000部。ページ数は予算内で8ページ増とした。

(2) 主要改定箇所

- ・「プレゼンテーション技法」の大項目を新たに設け、6ページ作成。
- ・「メールの書き方」・「ディスカッション」・「大学での学び」部分を加筆・修正する。

(3) 今後の進行

2018年3月末：刊行予定

3. FD広報活動の実施状況

(1) FD推進センター Newsletter

第22号（5月25日）	新FD推進センター長挨拶、FD学生の声コンクール・FD川柳の実施、授業改善に活用できるツールや取り組みの紹介（学習支援ハンドブック、法政教員の輪、アカデミック・サポートサービス、学生による授業モニター）
第23号（6月26日）	2017年度春学期期末「学生による授業改善アンケート」授業内実施・周知用ツール・実施アイディアの紹介
第24号（9月18日）	第10回FD学生の声コンクール・FD川柳の募集、2017年度秋学期授業改善に役立つ制度の紹介（期首・期中アンケート、アカデミック・サポートサービス、学生による授業モニター）、イベント実施報告（第6回新任教員FDセミナー、第18回FDワークショップ）、学生FDスタッフ活動報告
第25号（12月25日）	第10回FD学生の声コンクール・FD川柳結果発表、新学年暦100分授業制教員向けガイドの発行、アクティブ・ラーニングセットの紹介、学生FDスタッフ活動報告
第26号 （3月25日発行予定）	学生FDサミット2018春の開催紹介、第10回FDミーティングの開催紹介、『法政大学教育研究』第10号（紀要）投稿論文の募集案内、第2回法政大学スーパーグローバル大学創成支援事業・第14回FD合同シンポジウムの開催、現代福祉学部well-being研究会での講演、2017年度「第10回FD学生の声コンクール」・「学生が選ぶベストティーチャー賞」授賞式・表彰式・祝賀会報告

Ⅲ 2018年度に向けた課題

- (1)学習支援ハンドブックの編集（評価改正他）
- (2)学習支援ハンドブックの活用事例アンケートの実施
- (3)他のプロジェクトとのさらなる連携

以上

〈学生FD活動〉

I 2017年度活動計画（2017年5月20日のアドバイザー・ボード会議で報告された内容）

1. 活動目的

学生の主体的な学びへの意欲および教育の質向上を目的とし、学内外での「学生FD」活動を通して、正課・正課外活動等における優れた教員や学生の取組みを、学生が選ぶベストティーチャー賞、学生授業モニター、教員インタビュー及び学生FD活動への参画等により、学生・職員・教員協働型の大学教育の質的転換に関する情報発信を行うことにより、学生の視点を活かした授業改善および組織的な学生FD活動を実施する。

2. 活動計画（時系列）

(1) 春学期

- ・学生FDスタッフ新規募集について

市ヶ谷キャンパス、多摩キャンパスおよび小金井キャンパスにおける学内説明会および学生掲示板による広報（メンバーの募集状況により募集期間は設定する）

- ・学生授業モニター関連について

授業モニター学生の募集、事前ヒアリング、学内研修（2017年5月20日（土）および22日（月）市ヶ谷キャンパスにて実施予定）、モニター授業募集（主に新任教員）、マッチング、授業モニタリング実施、事後報告（2017年7月22日（土）終了予定：ただし、多摩キャンパスは、7月25日（火）まで可とする）

(2) 夏期休暇

- ・2017年度学生FDサミット夏への参加による情報収集

金沢星稜大学 2017年8月31日（木）～9月1日（金）学生FDスタッフ2名参加予定

- ・オープンキャンパス企画への参加（春学期中に要学内調整：未確定）

(3) 秋学期

- ・学生が選ぶベストティーチャー賞関連について

2017年度テーマ確定、3キャンパス広報活動準備、投票広報活動（2017年10月23日（月）～11月24日（金）予定）、選考会、表彰式および教員インタビュー

- ・学生FDサミット2018春関連について

法政大学市ヶ谷キャンパス開催 2018年3月8日（木）～3月9日（金）

第11回FDフォーラムを3月8日（木）13:00～同時開催

基調講演（予定）京都大学教育学研究科 服部憲児 氏

「学生FD活動に期待すること」—さらなる輝きのために—（仮題）

II 2017年度活動報告（時系列）

1. 学生FDスタッフ関連（時系列）

学生FDスタッフ（2018年03月16日（金）現在）

1年2名、2年6名、3年5名、4年5名 合計：18名

(1) 学生FDスタッフお昼ミーティング

- ・ 2017年5月26日（金）12:50 ～ 13:25
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2
検討内容：年間スケジュール計画について
- ・ 2017年6月16日（金）12:50 ～ 13:25
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2
検討内容：①2017年度8月6日（日）、8月20日（日）及び21日（月）オープンキャンパス企画の進捗状況および企画内容について
②学生FDサミット2018春紹介コンテンツ作成について
- ・ 2017年6月29日（木）12:50 ～ 13:25
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2
検討内容：①2017年度8月6日（日）、8月20日（日）及び21日（月）オープンキャンパス企画の進捗状況および企画内容について（継続）
②学生FDサミット2018春紹介コンテンツ作成について（継続）
- ・ 2017年6月21日（木）5時限目
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2
内 容：①学生FDの歴史について（川上話題提供）
②学生FDサミット2018春に向けた合宿について
- ・ 2017年7月21日（金）、7月27日（木）12:50 ～ 13:25
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2
検討内容：①「学生FDサミット2018春」紹介コンテンツ作成について
②2017年8月6日（日）、8月20日（日）及び21日（月）オープンキャンパス企画の進捗状況および企画内容について
③「学生が選ぶベストティーチャー賞」の部門及びスケジュールについて
- ・ 2017年8月04日（金）15:00 ～ 17:00
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2
検討内容：オープンキャンパス企画および進行について
- ・ 2017年10月06日（金）12:50 ～ 13:30
- ・ 2017年10月13日（金）12:50 ～ 13:30
- ・ 2017年10月19日（金）12:50 ～ 13:30
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2
検討内容：①学生が選ぶベストティーチャー関連：テーマ、ちらし、広報活動等について
②学生FDサミット関連：全体構成、One 関東圏プロジェクトとの連携
③新学年暦（100分授業制）に関する学生向けマニュアルについて

(2) ピアネット関連

- ・ 模擬オープンキャンパス体験
2017年7月8日（土）9:50 ～ 16:00
オープンキャンパススタッフと合同で、来場高校生役として参加
- ・ オープンキャンパス関連ミーティング
2017年8月04日（金）15:00 ～ 17:00
場 所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 3階ピア・ラーニング・スペースroom2

検討内容：オープンキャンパス企画および進行

- ・2017年度オープンキャンパス企画

2017年8月06日（日）オープンキャンパス 市ヶ谷キャンパスゲート棟 G502

2017年8月20日（日）オープンキャンパス 市ヶ谷キャンパスゲート棟 G502

2017年8月21日（月）オープンキャンパス 市ヶ谷キャンパスゲート棟 G502

全日程共通内容（各日：3回説明会実施）

法政大学でのまなびについて（参加数合計：272名）

(3) 学生FDサミット関連

- ・学生FDサミット2018春 広報ビデオ撮影

2017年8月21日（月）市ヶ谷キャンパスゲート棟 5Fテラス 16:30～17:00

終了後、春学期学生FDスタッフ懇親会を実施

- ・学生FDサミット 2018夏 金沢星稜大学

2017年8月31日（木）、9月01日（金）学生FDスタッフ7名及び教職員4名

- ・学生FDスタッフ研修合宿

2017年9月15日（金）、9月16日（土）

- ・学生FDサミットに関するミーティング・リハーサル

2018年1月18日（木）12:50～13:25

2018年2月1日（木）16:00～17:30

2018年2月24日（土）10:00～13:00

2018年3月1日（木）10:00～16:00

2018年3月7日（水）14:00～20:30

- ・学生FDサミット2018春

2018年3月8日（木）、9日（金）

場 所：市ヶ谷キャンパス 外濠校舎S305教室等

参加者：262名（内訳 学生：186名 職員：25名 教員：48名 その他：3名）

関係者：24名

2. 学生授業モニター関係

(1) 春学期

- ・2017年度春学期「学生による授業モニター」応募学生研修

2017年05月20日（土）13:30～15:00

2017年05月22日（月）16:50～18:20

2017年05月24日（水）16:50～18:20

2017年05月29日（月）16:50～18:20

- ・春学期実施実績（教員）5名（専任教員：情報科学、経済、理工、キャリアデザイン、理工）

(2) 秋学期

- ・2017年度秋学期「学生による授業モニター」応募学生研修

2017年10月05日（木）16:50～18:20

2017年10月19日（木）16:50～18:20

- ・秋学期実施実績（教員）4名（専任教員：文、理工、理工、経済）

3. ベストティーチャー関係

(1) 2017年度第一回「学生が選ぶベストティーチャー賞」実行委員会について

- ・2017年度第一回「学生が選ぶベストティーチャー賞」実行委員会

2017年7月7日（金）18:30～

- ・概要

テーマ：「あなたの推しの先生は？」

部 門：Ⅰ教養部門 Ⅱ専門部門 Ⅲ語学部門

特別賞：Ⅰグローバル部門 Ⅱ実技部門

投票期間：10月25日（水）～11月17日（金）

表彰式：12月25日（月）

広報活動：市ヶ谷 昼休み・4時限後（自主法政祭を除く毎日）

多摩・小金井 各2回（終日）

投票総数：3,032票（当初目標は1,500票）

- ・学生が選ぶベストティーチャー選考会

2017年11月25日（土）13:00～

4. 他大学との連携協力

(1) ヒアリング

日 時：2017年10月27日（木）12:30～14:30

場 所：市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎5F F Dセンター長室

ヒアリング実施者：島根県立大学 吾郷 美奈絵 教授

本学対応：川上 忠重（学生F D担当教員）、客夢璐（学務部教育支援課）

ヒアリング内容：

学生F Dフェイスシートに基づく、本学での学生F Dに関する取組み、学生・職員・教員の協働方法および「学生F Dサミット2018春」への取組みについて

5. 情報収集

(1) 桜美林大学 大学教育開発センター 公開シンポジウム

テーマ：「F Dのさらなる発展を目指して」—学生F D活動について考える—

日 時：2017年9月12日（火）14:00～17:00

(2) 科研研究会

テーマ：「大学教師のプロフェッショナル化—イギリスにおける大学教師認証の事例から」

講 師：James Wisdom, Higher Education Consultant

※James Wisdom氏（高等教育開発コンサルタント、SEDA元会長、ICED元会長）

日 時：平成29年11月2日（木）14時～16時（逐次通訳つきの、講演と質疑応答）

場 所：国立教育政策研究所（虎ノ門合同庁舎6階）第2特別会議室

(3) 「インタラクティブ・ティーチング」フォーラム

第1回「あらためて、シラバス」

日 時：平成30年3月4日（日）10:00～18:00

場 所:東京大学 駒場 I キャンパス 講堂ほか

講 師:栗田佳代子 (東京大学)、佐藤浩章 (大阪大学)、吉田 壘 (東京大学)

以上